初戦を終えて 選手のコメント紹介①

赤鬼の春Ⅱ 43

彦根東高校新聞

速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

1 増居翔太君

増居翔太君（2―4）は9回を投げきった感想を「再三ピンチを招き、また失点してしまったので課題の残る結果となったが、高内のホームランなど打線が頑張ってくれたのでよかった」と微笑んだ。増居君は試合全体を通して「バントに失敗した次の回で相手にヒットを打たれるなど、気持ちの面が結果にもよく出た。攻撃の失敗から相手にチャンスを与えてしまうこともあったが、それは慣れているので落ち着いてプレーできた」と話した。また「相手に一気に2点を取られたときは動揺したが、夏の甲子園での逆転を思い出して踏ん張ることができた」と打ち明け「今回で3回目となる甲子園のマウンドだが、慣れるということはなかった。しかし赤いアルプススタンドを見ると安心できた」と応援の効果を話した。次の試合に向けて「次の対戦相手である花巻東高校には先輩たちが以前負けてしまっているが、それを見て入部した部員もいると思う。先輩たちのリベンジを果たせるよう頑張りたい」と意気込んだ。

2 高内希君

高内希君（2―8）は初戦の慶応戦について「苦しい展開になるのはわかっていた。だから接戦に持ち込み、後半勝負で逆転できるようにしていた」と話した。また「昨年の夏にチームが甲子園に出たが、自分は出場することができなかった。その悔しさを持って今回甲子園に戻ってきたから、苦しかったけど楽しく試合ができた。みんなも良い顔でプレーしていて、良い雰囲気が出ていたと思う」と柔らかな表情を見せた。

高内君は決勝点となるホームランを打ったときの心境を「前の回で逆転され、この回では良いところで打順が回ってきた。だから自分がやるしかないと思った。相手の球は難しい球だが、自分が得意な球だとも思った。打った瞬間は『入った』と思ったが、ファールにならないかどうかは気がかりだった。スタンドに入ってくれてよかったと思った」と述べた。また「試合が始まる前の日まで絶不調で、全く打てなかった。そのなかでもキャプテンとして試合を決められたことはうれしい。もっとみんなに信頼してもらえるバッターになりたい」と話した。

そのホームランが甲子園で初の21世紀生まれの選手が打ったホームランとなったことについて「抽選会の前の日にキャプテントークがあり、21世紀生まれ初のホームランを打ちたいかと聞かれ、手を挙げた。でもそのときはまさか本当に自分が打てるとは思っていなかった。しかしあのホームランが結果的に21世紀生まれ初のホームランとなってよかった。歴史に残る一本となればいいと思う」と感慨深げだ。

高内君は次戦の相手について「花巻東は5年前の夏の甲子園で先輩たちが負けた相手で、みんなも抽選会のときから『対戦したい』と言っていた。だから5年前のリベンジをしたい気持ちはみんな持っていると思う」と話した。高内君は最後に「2勝以上するというのが目標だったし、それが昨年2勝できなかった先輩たちのリベンジになるとも思う。しっかり勝って、応援してくださる皆様の期待にまた応えたい」と語気を強めた。